

## 目 次

まえがき

## 序章 本書の目的…………… 1

- 1 問題の所在 1
- 2 研究方法および本書の目的 6

第1章 現行日本刑法第38条における  
「罪を犯す意思」の内容…………… 9

- 1 旧刑法第77条成立の経緯 9
- 2 旧刑法下における学説 14
- 3 現行刑法第38条成立の経緯 21
- 4 現行刑法典下における刑法改正作業と故意論 25

## 第2章 戦前日本における学説・裁判例の展開…………… 40

- 1 戦前の学説 40
- 2 戦前の大審院裁判例 48
- 3 小 括 58

## 第3章 近代までのドイツにおける故意論の展開…………… 64

- 1 前 史 64
- 2 中世および近世ドイツにおける故意論 76
- 3 小 括 95

第4章 近代以降のドイツにおける（未必の）  
故意論の展開……………108

- 1 フォイエルバッハの故意論とその批判 110
- 2 未必の故意の定式化 114
- 3 小 括 128

第5章 1871年ライヒ刑法典成立以降の  
学説の展開……………137

- 1 議論の出発点としてのフランクの見解 137
- 2 積極的・肯定的感情関係を問題とする立場 143
- 3 消極的・無関心な感情関係を問題とする立場 157
- 4 小 括 165

第6章 戦後ドイツにおける未必の故意論の展開……………178

- 1 通説の形成と展開 178
- 2 認識説—新たな展開 191
- 3 小 括 214

第7章 戦後日本における学説・裁判例の展開……………222

- 1 積極的・肯定的心理関係を問題とする見解 222
- 2 消極的・無関心な心理関係を問題とする見解 235
- 3 戦後の裁判例 242

終章 まとめと今後の課題……………261